

教職大学院院生 S.H さん

今回、「命の教育 2017 シンポジウム」に参加させていただきました。このシンポジウムのテーマは自殺に関することであり、学校現場において絶対に防がなければいけないことです。その学校現場において、子ども達の自尊感情の低さについて話題がありました。これは教育をしていく中である悪いところを直そうとすることが原因であると考えられました。子どもの良いところがあって褒めることがあっても、それ以上に悪いところが目立ってしまい、注意を何度も受けることで子どもの自尊感情が下がってしまうのではないかと考えました。

養護教諭の吉川さんの話ではストレスマネジメントを取り入れて、心の安定を保健室で行っていました。保健室では、ペアーリラクゼーションや呼吸法、また、肩上げなどのストレスマネジメントを取り入れ、その後、行動のふり返りをサポートし、抱えていたストレスによる感情を収めていました。学級のような子どもが多くいる場所よりも、保健室のような 1 対 1 で対応できる環境下では心の安定が図りやすいです。もし、子どもが心に余裕がない不安定な状況下にあるときは、養護教諭の先生と連携を取り、心のよりどころをしっかりと確保することが必要だと考えました。

最後に、阪中先生の話であった「きょうしつ」という言葉がとても印象に残っています。「気づいて、寄り添い、受け止めて、信頼できる大人に、つなげよう」の頭文字からなっています。特に「気づいて」の部分は私自身、一番重要なことだと思っています。子どもの些細な変化に気づけたことで、自殺を未然に防ぐことができるかもしれないと考えたからです。この気づきは大人から子どもまで、他者を見ることによって気づけることなので、「きょうしつ」という言葉を通して、未来ある子どもたちに伝えていきたいと思います。